

最先端産み分け法  
インタビュー日本の一歩先を行く、アメリカの  
「最先端産み分け法」を聞きました

アメリカで男女の産み分けに主に使われているのが体外受精による「着床前遺伝子診断」です。日本では一部のケースについて認められているものの、事前審査が必要な特別な技術ですがアメリカでは一般の患者様が、担当医の判断によって受けることのできる治療です。

具体的には排卵誘発剤を

使用したあとに、女性パートナーから採取された卵子と男性パートナーから採取された精子を体外受精して得られた受精卵に着床前診断を施します。染色体を調べる場合、X染色体とY染色体も調べますから、受精卵の性別を判別することが可能になります。その後、どちらか一方の性別の受精卵だけを選んで子宮に移植

すると、妊娠が成立した場合はその性別の子供が誕生する、ということになります。

アメリカ、少なくともカリフォルニア州では「ファミリーバランシング」の目的で男女産み分けも容認されています。これによって、健康な第1子をすでに授かっている場合、第2子以降の妊娠を試みる時に限って、着床前遺伝子診断の後に、夫婦が希望する性別の受精卵のみを移植することが可能になっています。

費用は、体外受精、着床前診断料、薬剤、検査やカウンセリング等で、一回胚移植終了までに合計で約350万円以上かかります。

まだFDA（日本の厚労省にあたる政府機関）の認可や下りていないのですが、最近一部では「マイクロソート」という新しい技術によって精子を選別して、そ

日本ではまだ認可されていない卵子提供や着床前遺伝子診断などアメリカの最先端生殖医療のコーディネートを手がける会社、IFCの社長。サンフランシスコで約15年にわたり約600組以上の日本人夫婦の治療をサポートしたキャリアを持つ。近著に「いつまで産める？ わたしの赤ちゃん〜いま、不妊治療・生殖医療ができること。自然妊娠から卵子提供、代理出産まで」（実業之日本社刊）など。

川田ゆかりさん

いつまで産める？  
わたしの赤ちゃん

の後に人工授精・体外受精によって産み分ける方法も導入され始めています。確率的には女子が希望の場合は約88%、男子の場合は80%未満という割合で希望の性別の赤ちゃんが生まれるという結果になっています。アメリカではパーコール法による産み分けは有効ではない、という見解が多く現在パーコール法は使われていないので、それに代わる方法として注目を集めているのです。



欧米の老舗新聞や放送局の英字サイトには、日本ではあまり報道されることのない、衝撃的な最先端の産み分け情報が。

まさに「デザイナー・ベビー」の時代を体験できる作品です!!

DVD

ガタカ

出演: アラン・アーキン、  
イーサン・ホーク、ユマ・サーマン  
監督: アンディ・ニコル  
ノース・ピクチャーズエンタテインメント  
2000年11月21日発売 175分

遺伝子工学の発達によって優秀な遺伝子の組み合わせで生まれた「適性者」が世の中を支配している未来世界。そこに自然妊娠で生まれた「不適性者」(イーサン・ホーク演じるヴィンセント)が遺伝子適性をこまかにして宇宙局「ガタカ」へ入社するというストーリーで始まるSF映画。DNA優先で人間の優劣を決めるといふ未来世界は今後の産み分けが発達していったらどろろく世界なのかな? ということを示唆するよう。

## 肌の色も髪の色もセレクト可能なデザイナー・ベビーってホント?

一部で報道があったのが、肌の色や髪の色、瞳の色などが希望どおりの赤ちゃんを産み分けできるというもの。現実ってここまで進んでいるの?

「これは技術的に無理だと思います。着床前遺伝子診断をしたとしても、判断できるのは1つの胚について単一遺伝子異常、あるいは何種類かの染色体。だから、肌・髪・瞳などをすべて希望通りというのは考えられませんし、もともと両親になかった形質を作り上げることもできません。医療の現場にいて感じるのですが、産み分け希望の方の着床前遺伝子診断で、希望の性別以外の胚のほうが良好な状態の場合、どなたも性別よりも良好な胚を移植して妊娠の可能性を高めることを望まれます。人間は命を目の前にすると、ワガママな気持ちを持つことはできないというのが実感。なので、このような産み分けなどありえないと思いますよ」

## がんの遺伝子を持たない赤ちゃんが産み分けできる?

これはイギリスのTHE TIMES紙によって報道されたもので、がんを発症させる遺伝子を持たない赤ちゃんを産み分けすることができるのだとか……。



「これは2006年にブラハの学会で発表されたもので90%の確率で遺伝する目のがんの予防として受精した胚のスクリーニングによる着床前遺伝子診断が行われて成功した、というものです。実はそれまでも着床前診断は行われていたのですが、この例はがんを発病する胚のスクリーニングをしたということで話題になりました。がんの遺伝子を持たないと聞くと、一瞬すべてのがんの遺伝子を持たない赤ちゃんと思ってしまうのですが、これは特定の遺伝性が強いがんの遺伝子を持たないということなので、勘違いなさらないようにしてくださいね」



同じ顔つきで、肌や瞳の色が違う新生児を並べた写真付きでニュースを伝えているのはラテン系アメリカ人向けのサイト。

産み分けが発達すれば、がんの遺伝子を持たない赤ちゃんを産むことや希望どおりの肌や瞳の色の赤ちゃんを産むことも可能!? 海外ではそんなニュースもちろほら……。そこで、前出の川田先生にこれらの最新情報の真偽を教えてくださいました。

まるでSF!?

世界の産み分け事情最前線